

玉作1遺跡(第3次)発掘調査説明会資料

2007年7月11日(水)

財団法人山形県埋蔵文化財センター

調査要項

遺跡名	玉作1(たまづくり1)遺跡
遺跡番号	平成16年度登録
所在地	鶴岡市大字中清水字玉作
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因	日本海沿岸東北自動車道(温海~鶴岡間)
調査面積	1000㎡
現地調査	平成19年5月9日~平成19年7月11日
遺跡種別	集落跡
時代	弥生時代、古墳時代、平安時代
遺構	掘立柱建物跡、土坑、落ち込み、河川跡、井戸跡、溝跡
遺物	石鏃、管玉未成品、土師器、須恵器、中世の土器、古銭
調査担当者	調査課長 長橋 至 調査研究主幹 佐藤 正俊(調査主任) 専門調査研究員 黒坂 雅人 調査員 深澤 篤
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社 鶴岡工事事務所 鶴岡市教育委員会・庄内教育事務所



第1図 遺跡位置図(1:50000)

1 調査(遺跡)の概要

玉作1遺跡は、平成10年度の日本海沿岸自動車道計画路線とその周辺の踏査により、遺跡になる可能性のある地域ということで抽出されていました。その後、工事計画が進み、用地買収の終わった平成17年3月に山形県教育委員会が試掘調査を行いました。その結果、古墳時代の土師器片などが出土し、一部で土坑などの落ち込みも確認されました。このことにより、当地は「玉作1遺跡」として登録されるとともに、工事計画との調整が進められ、平成17年度の事業として調査計画に組み入れられることになりました。

計画路線内全体の遺跡面積はおおよそ7,600㎡となりますが、このうち暫定二車線工事区域に入り、平成17年度に着工予定となっているプレロード施工部分を含む3,680㎡を対象として平成17年度に第1次発掘調査が行われました。平成18年度は、残りの2,300㎡について第2次調査を実施しました。

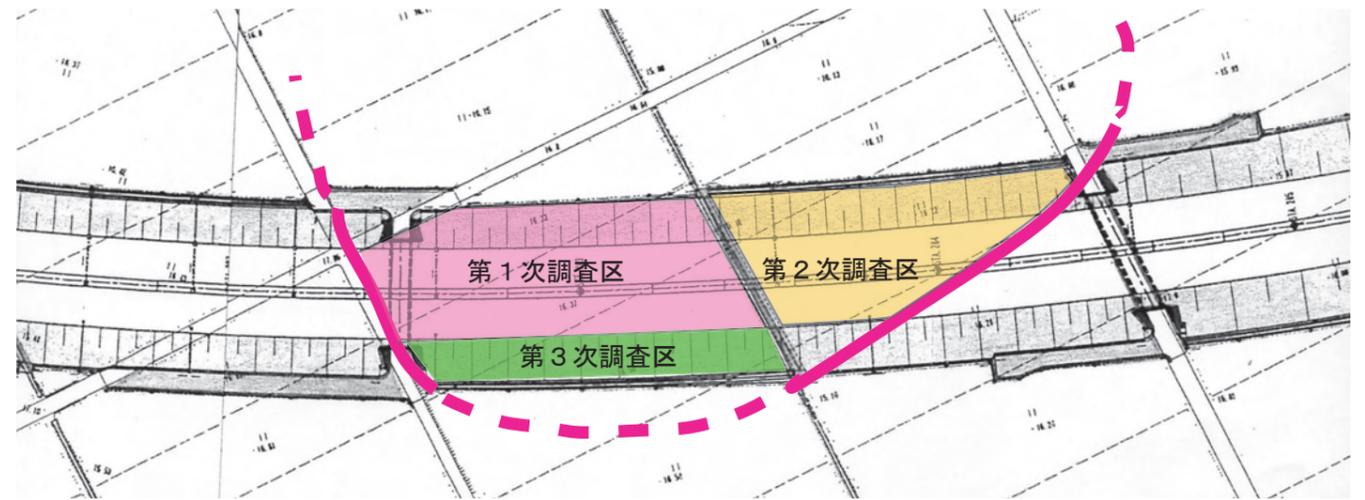
今年は、新たに工事用道路部分の1,000㎡について調査をすることになりました。発掘調査は5月9日から始められ表土を重機械で掘削した後で、手作業で掘り進めました。第1次調査から延びてくる河川跡、井戸跡、溝跡、柱穴などを見つけることができました。図面や写真など遺し記録保存を行って、7月11日に調査が終了しました。



第2図 調査区全景



第3図 調査区完掘全景



第4図 遺跡調査範囲(S=1:2000)

2 遺構と遺物

今回の調査で発見された遺構は、以前の圃場整備によってその多くが壊されていました。

調査区は、広範囲に亘って粘土層と砂層が交互に堆積しており、調査区の東端や西端で厚くなり河川跡が確認されています。中央の高まった地点に井戸跡や溝跡、柱穴が発見されました。

井戸跡(SE74)は、約1.5mで深さ推定2mの円形の形を示しています。東に隣接する溝跡(SD75)は幅70~90cm、深さ15~25cmを計り、不用になった土器(土師器)が投げ捨てられた状態で出土しています。

柱穴は、径20cm前後、深さ10~20cmになりますが、建物を構成するような柱穴は確認されませんでした。中には柱根を持つものもあります。時代は不明です。

河川跡(SG56)は第1次調査区から延びて大きく蛇行し北に流れていきます。さらに中央から東にかけて中小河川(SG71・72・73)があります。遺物は出土しません。

遺物は、溝跡(SD75)からは甕など古墳運時代の土師器がまとまって出土しています。調査区全体からは、摩滅した土師器片、中・近世の陶磁器片、古銭、用途不明の木製品なども出土しています。出土した遺物は、整理箱に8箱分となります。

3 調査のまとめ

今回の調査区で検出された井戸跡や溝跡は、出土した遺物から古墳時代前期に属する時代で、第1次調査区から続く今から1,800年前の集落の一部と見られます。

時代を古墳時代に限定してみると、恐らく玉作1遺跡集落の中心地は、調査区の北側と南側にかけての一带、高速道路建設工事区外、現在田圃となっている地区と考えられます。第1・2調査の結果と併せると南北に広範囲に延びる自然堤防状に立地するものと推測されます。



第5図 古墳時代の土器



第6図 手捏ね土器・土錘・砥石



第7図 近世の陶磁器



柱穴（柱根あり）



柱穴（柱根あり）



柱穴群



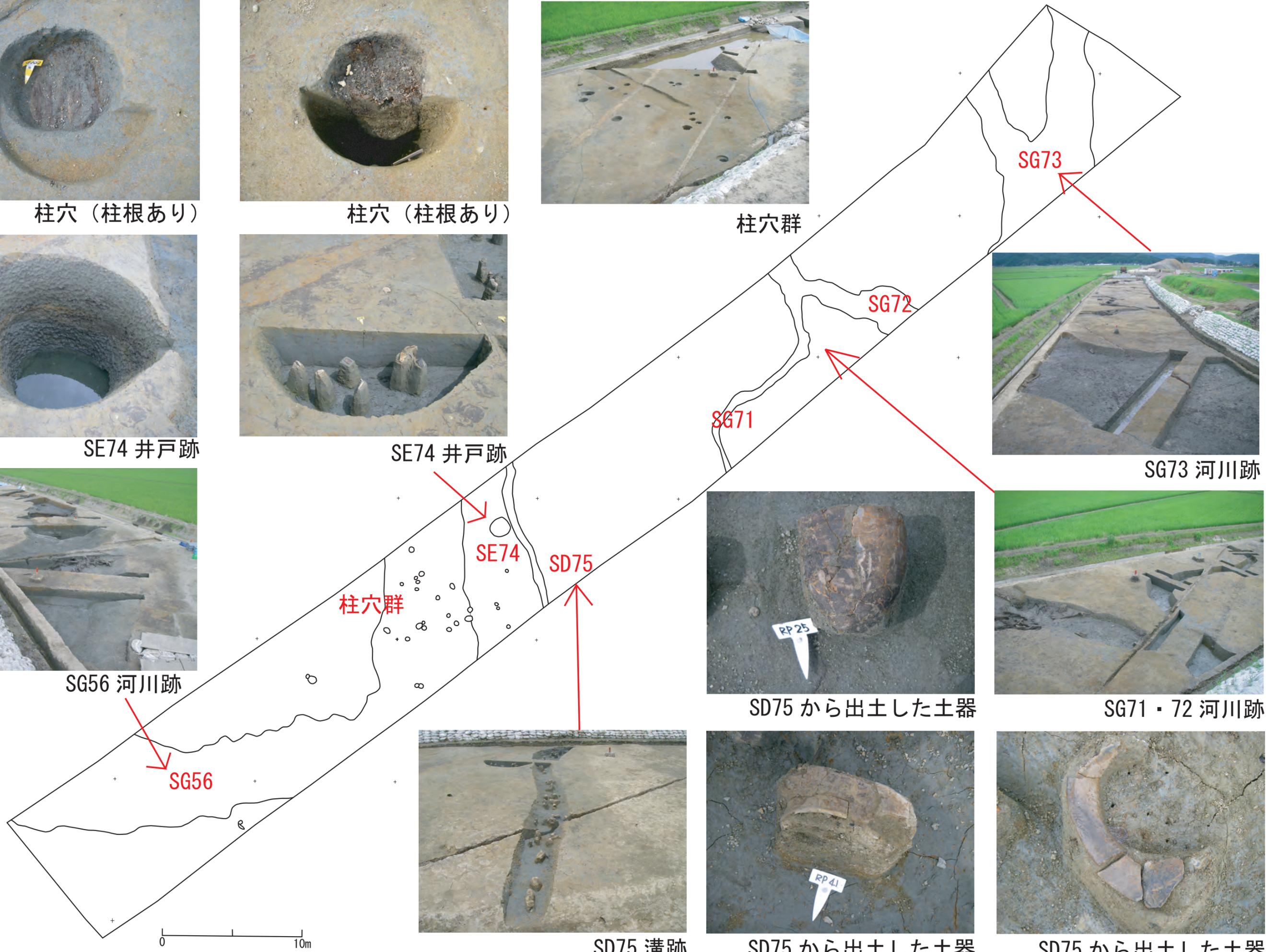
SE74 井戸跡



SE74 井戸跡



SG56 河川跡



SG73 河川跡



SD75 から出土した土器



SG71・72 河川跡



SD75 溝跡



SD75 から出土した土器



SD75 から出土した土器